

## 〈 セミナーのご案内 〉

● 配布先を限定しておりますので、関係各位へのご回覧につき、ご高配をお願いいたします。

回					
覧					

高等教育活性化シリーズ 267 (通算 594 回)

2014 年 6 月 3 日 (火)

教育・研修の義務化と体制強化 ―

# 研究活動倫理の検証と進化策 Ⅲ

高等教育活性化シリーズ 269 (通算 598 回)

2014 年 6 月 18 日 (水)

科学者の行動規範の実効化 ―

# 研究倫理教育の責務とプログラム展開

教育・研修の義務化と体制強化 ―

## 研究活動倫理の検証と進化策 Ⅲ

～ 責任ある研究とは / ガイドラインの運用改善 / 教育プログラムの実際 ～

- ※ 研究倫理教育の義務化と強化施策 / 「不正行為」ガイドラインの見直し・運用改善に向けて
- ※ 学問的誠実性の国際動向 / 出版・編集者の共通規範化 / 責任ある研究活動への教育と学習
- ※ [筑波大] 大学院共通科目「研究倫理」 / 責任の範囲と組織マネジメント / リスク管理としての研究倫理
- ※ [名古屋大] 公正研究の基本方針 / 公正研究責任者・委員会の設置 / 論文剽窃チェックツールの導入

### ● 講師陣 ●

松尾 泰樹 氏 / 文部科学省 科学技術・学術政策局 人材政策課長  
羽田 貴史 氏 / (国) 東北大学高度教養教育・学生支援機構副機構長 大学教育支援センター長  
キャリア支援センター長 学際融合教育推進センター長  
岡林 浩嗣 氏 / (国) 筑波大学 生命領域学際研究センター 講師 URA 推進室 室員  
藤井 良一 氏 / (国) 名古屋大学 理事 (公正研究担当) 副総長

2014 年 6 月 3 日 (火)

剛堂会館 (明治薬科大学) 会議室 (東京・麹町)

科学者の行動規範の実効化 ―

# 研究倫理教育の責務とプログラム展開

～ 生命科学・医学系分野での取り組みと実際 ～

- ※ 大学・学会の行動規範・倫理教育への責務 / 近現代史からの温故知新 / 科学の自立的性格の変容
- ※ 医学研究の公正性確保 / 利益相反 (COI) マネジメント / ガイドライン・指針
- ※ CITI Japan プロジェクト ~ 6 大学・4 機関の取り組み / JST 採択 ~ e ラーニング提供
- ※ [上智大] 学部・院生への生命倫理教育プログラム / 大学・研究者としての責任 / CITI Japan 参画

### ● 講師陣 ●

村上陽一郎 氏 / (学) 東洋英和女学院 学事顧問 前大学長  
東京大学・国際基督教大学 名誉教授  
飯田香緒里 氏 / (国) 東京医科歯科大学 研究・産学連携推進機構 教授 産学連携研センター長  
学術研究機関における医学研究 COI マネジメント検討班主任研究員  
福嶋 義光 氏 / (国) 信州大学 医学部長・教授 大学間連携「CITI Japan プロジェクト」事業統括  
青木 清 氏 / 上智大学 名誉教授 生命倫理研究所長

2014 年 6 月 18 日 (水)

剛堂会館 (明治薬科大学) 会議室 (東京・麹町)



[ 参加要領 ]

日時： ■高等教育活性化シリーズ 267 研究活動倫理の検証と進化策Ⅲ

2014年6月3日(火) 10:00~16:40

■高等教育高等教育活性化シリーズ 269 研究倫理教育の責務とプログラム展開

2014年6月18日(水) 9:40~16:40

会場：剛堂会館(明治薬科大学)会議室(東京・麹町) ※両日程、同会場

千代田区紀尾井町3-27 TEL 03-3234-7362

(東京メトロ有楽町線「麹町駅」1番出口より徒歩4分、またはJR中央・総武線「四ツ谷駅」麹町口より徒歩10分)

参加費	ご一名 (資料代を含む)	メディア参加 (資料及び音声CD送付)
高等教育活性化シリーズ 267 研究活動倫理の検証と進化策Ⅲ	42,000円 (消費税込)	43,000円(消費税、送料込)
高等教育活性化シリーズ 269 研究倫理教育の責務とプログラム展開	41,000円 (消費税込)	42,000円(消費税、送料込)

※メディア参加とは、開催当日に会場に来られない方の参加形式です。

※開催後に当日配布資料及び音声CDをご送付します。

※なお、当日参加とともに、音声CDをご希望の方には、特別割引いたします。

※参加費の払い戻しは致しません。申込者のご都合が悪いときには、代理の方がご出席ください。

申込方法：参加申込書に所要事項を記入のうえ、FAX または Email にてご送付ください。

※受講証及び会場の地図の送付をもって参加受付となりますので、必ずご確認ください。

支払方法：銀行振込・郵便振替・当日払いがあります。

みずほ銀行麹町支店 普通 1159880 三菱東京UFJ銀行神田支店 普通 5829767

三井住友銀行麹町支店 普通 7411658 \*郵便振替：00110-8-81660

口座名 (株)地域科学研究会

(ご請求なき場合は振込受領書を領収書に代えさせていただきます)

インターネットでのご案内は⇒<http://www.chiikikagaku-k.co.jp/kkj/> E-mail: [kkj@chiikikagaku-k.co.jp](mailto:kkj@chiikikagaku-k.co.jp)

☆同人組織としての「高等教育計画経営研究所」を創設、KKJのURLにてご覧ください。

お申込み・お問合せ



地域科学研究会  
高等教育情報センター

東京都千代田区一番町6-4 ライオンズ第2-106

TEL 03(3234)1231 FAX 03(3234)4993

キリトリ線(※参加申込みの折は必ずお送りください)

研修会参加申込書

2014年 月 日

高等教育活性化シリーズ 267  
研究活動倫理の検証と進化策Ⅲ

(□に✓印を入れてください)

当日参加  メディア参加

高等教育活性化シリーズ 269  
研究倫理教育の責務とプログラム展開

当日参加  メディア参加

支払方法  当日払い  銀行振込  郵便振替

必要書類  請求書  見積書

勤務先

〒

連絡部課・担当者名

所在地

メールアドレス

TEL

FAX

参加者氏名	所属部課役職名	メールアドレス

※この個人情報は、本セミナーの一連の業務及び今後のご案内に使用させていただきます。

時間	講義項目
10:00 11:00	<p><input type="checkbox"/> 研究倫理教育の義務化と強化施策                      ～「不正行為」ガイドラインの見直し・運用改善に向けて～                      文部科学省 松尾 泰樹</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>わが国における研究不正の状況</li> <li>大学などの研究機関の取り組み状況</li> <li>「研究活動の不正行為」「研究費の不正使用」ガイドラインの見直し</li> <li>「研究不正行為・研究費の不正使用に関するタスクフォース」</li> <li>「研究活動不正行為への対応ガイドライン」の見直し・運用改善</li> <li>研究機関における公的研究費の管理・監査のガイドライン(実施基準)の改正</li> <li>日本学術会議提言「研究活動における不正の防止策と事後措置                      ～科学の健全性向上のために～」</li> <li>研究倫理教育</li> <li>若手研究者への主な新たな支援策概要 <span style="float:right">〈質疑応答〉</span></li> </ol>
11:10 12:30	<p><input type="checkbox"/> 研究倫理確立に向けた大学・学会の責務                      ～責任ある研究活動を目指す国際動向と日本の課題～                      東北大学 羽田 貴史</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>Academic integrity(学問的誠実性)を取り巻く国際動向                      (1)Academic integrity(学問的誠実性)とは(2)諸外国の対応                      (3)日本:日本学術会議「科学者の行動規範」と科学技術・学術審議会ガイドライン</li> <li>国際動向が示唆するもの ～ 研究不正摘発から責任ある研究行為の確立へ                      (1)研究の国際化と出版・編集者の共通規範化                      (2)OECDと世界会議(第1～第3回)「シンガポール宣言」と「モンリオール声明」                      (3)世界研究評議会(GRC)と「誠実な研究のための原則に関する声明」                      (4)欧州科学評議会(ESF)と誠実な研究活動のための欧州準則                      (5)研究倫理に関する国際動向</li> <li>日本の現状と課題                      (1)研究倫理確立を目指す取り組み:「科学者の行動規範」改訂, ガイドライン見直し                      (2)研究規範確立をめぐる課題 (3)研究倫理確立のための教育と学習 <span style="float:right">〈質疑応答〉</span></li> </ol>
13:30 15:00	<p><input type="checkbox"/> [筑波大学] 研究倫理教育への取組みと今後の展開                      ～大学院共通科目「研究倫理」の実際～                      筑波大学 岡林 浩嗣</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>科学者の社会的責任と研究倫理                      (1)研究倫理問題の背景 (2)研究倫理をどう教育するべきか</li> <li>大学院で「研究倫理」をどう教えるか                      (1)研究倫理教育プログラム設置の背景 (2)大学院共通科目「研究倫理」の実際                      (3)学部における研究マネジメント教育</li> <li>研究不正対策を巡る諸問題と今後の課題                      (1)責任の範囲と組織マネジメント (2)リスク管理としての研究倫理 <span style="float:right">〈質疑応答〉</span></li> </ol>
15:10 16:40	<p><input type="checkbox"/> [名古屋大学] 公正な研究活動の遂行と研究倫理教育の強化                      名古屋大学 藤井 良一</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>公正研究遂行のための基本方針</li> <li>公正研究責任者及び公正研究委員会の設置</li> <li>取組みの実際                      (1)教授会等での啓発活動                      (2)論文剽窃チェックツールの導入</li> <li>今後の対応 <span style="float:right">〈質疑応答〉</span></li> </ol>

時間	講義項目
<p>9:40 }</p> <p>11:20</p>	<p><input type="checkbox"/> 科学者の行動規範・倫理教育への大学・学会の責務 ～ 近現代史からの温故知新 ～ 東洋英和女学院 村上陽一郎</p> <p><b>1. 技術者の場合</b> 19世紀に、先進圏では、技術の高等教育機関（仏のエコール・ポリテクニクや独語圏のTHなど）が創設され、技術の学校教育が始まった。その修了者は、「技師」、「技術者」として同業者組織を造ったが、ほとんど同時に、行動規範を公表した。その内容は二面に亘る。一つは、クライアントに対する責任であり、もう一つは公共の福利に対する責任である。日本でも日本土木学会は昭和13年（1938）には、行動規範を発表している。また現在、国際的な技師の資格（PE）のための協定（例えばワシントン・アコード）においては、技術教育の基準が設けられている（例えばABETのもの、日本版はJABEEのもの）が、いずれもケース・スタディを豊富に織り込んだ倫理教育のカリキュラムが必須とされる。</p> <p><b>2. 科学者の場合</b> 科学者共同体の形成は、上記の技術者の協会とほぼ同時期であるが、行動規範の作成には消極的である（日本の主要学会の一つ、日本化学会が行動規範を定めたのは2000年のことであり、しかも希有の例である）。学術会議が、今世紀に入ってようやく問題への動きを見せた。全米科学アカデミー（NAS）が、科学者の卵に配るためのパンフレット＜On Being a Scientist＞を編集・配布し始めたのは、1989年のことである。それによると、科学者としての規範やルールは、先輩の振舞いを見ながら自得してきたが、最近では、それだけの余裕がなく、スキャンダルが続発するようになったことを憂いて、この活動を始めるのだ、となっている。</p> <p><b>3. 科学者共同体の自立的性格</b> 上述のように技術の場合は、必ずクライアントがあり、かつクライアントの背後には、社会全体があるのに反して、科学者の場合には、基本的に、その活動のすべて（知識の創造、蓄積、流通、活用、評価、褒賞など）が、仲間内に限られており、自己充足的性格が強かった。したがって、行動規範もまた、暗黙の伝承に任されてきた、と言える。</p> <p><b>4. 科学の変質</b> 20世紀後半から、科学の自立的性格が変容する。行政（軍事などの）や産業という強力なクライアントが生まれたからである。その意味で、科学と技術との差は希薄になった。1999年ブダペストで開かれた世界科学会議では、その点は確認されたが、科学教育は、まだその変容を十分に理解し、対応していない。（質疑応答）</p>
<p>11:30 }</p> <p>12:45</p>	<p><input type="checkbox"/> 医学研究利益相反（COI）マネジメントの強化策 ～ 医学研究の公正性確保をめぐる動向 ～ 東京医科歯科大学 飯田香緒里</p> <p><b>1. 医学研究と産学連携</b> (1) 新たな医療の実現と産学連携 (2) 医学系アカデミアにおける産学連携実施状況：医学研究費の現状</p> <p><b>2. COIマネジメントの必要性</b> (1) 臨床研究データ操作事例からみる利益相反問題 (2) COIマネジメントとは (3) COIによる弊害とマネジメントの目的</p> <p><b>3. 医学研究の公正性確保に向けた動向とマネジメント強化策</b> (1) COIマネジメントに関する新たな制度：ガイドライン・指針等 (2) 産学連携活動の推進に向けた体制強化のポイント （質疑応答）</p>
<p>13:45 }</p> <p>15:20</p>	<p><input type="checkbox"/> CITIJapanプロジェクト～6大学・4機関での取組み ～ e-learning 活用の行動規範教育プログラムの全国展開 ～ 信州大学 福嶋 義光</p> <p><b>1. Collaborative Institutional Training Initiative(CITI)とは</b> (1) 米国のCITI～2004年4月発足とその活動 (2) CITIジャパンの発足～2012年「大学間連携共同教育推進事業」採択 (3) CITI Japanプロジェクトの事業実施体制</p> <p><b>2. CITI Japanプロジェクトの展開</b> (1) 日本語及び英語教材の作成～米国CITIとの共同開発 (2) 科学技術振興機構（JST）～採択要件での義務化 (3) 研究倫理教材とオンライン教育の提供と実際 （質疑応答）</p>
<p>15:30 }</p> <p>16:40</p>	<p><input type="checkbox"/> [上智大] 生命倫理の教育プログラムと社会的責任 ～ 学部・大学院生へのアプローチ/CITI Japanプロジェクトへの参画 ～ 上智大学 青木 清</p> <p><b>1. 学部・大学院生への生命倫理教育</b> (1) リベラルアーツとしての生命倫理 (2) 大学院としての研究倫理</p> <p><b>2. 生命科学の発展と生命倫理の課題</b> (1) 大学、研究者としての社会的責任 (2) CITI Japanプロジェクトへの参画 （質疑応答）</p>